スーパーマーケット販売統計調査資料

2018 年 9 月実績 速報版（パネル 270）
8 月実績 確報版（パネル 270）

（2018 年 10 月 23 日公表）

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に取り扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016 年 4 月実績よりパネル対象企業変更（275 社→270 社）

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版：毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版：速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店：前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店：前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮 3 部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インストアベーカーリー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
	非食品			日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具
	その他			テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業（DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等）

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014 年 4 月実績よりエリア区分を 8 地方区分による 6 地方に変更

一般社団法人　全国スーパーマーケット協会
一般社団法人　日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ
tokei@super.or.jp

2018年10月23日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
2018年9月実績　速報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
総売上高	89,015,357	100.0%	103.6%	102.3%
食品合計	80,793,558	90.8%	104.0%	102.6%
生鮮３部門合計	30,950,578	34.8%	104.7%	103.2%
青果	13,345,031	15.0%	106.8%	105.4%
水産	7,391,431	8.3%	102.8%	101.3%
畜産	10,214,116	11.5%	103.3%	101.7%
惣菜	9,204,747	10.3%	104.6%	103.0%
日配	17,687,370	19.9%	103.3%	102.1%
一般食品	22,950,864	25.8%	103.2%	102.0%
非食品	5,880,864	6.6%	100.1%	99.6%
その他	2,340,979	2.6%	103.1%	103.1%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
北海道・東北地方	12,316,120	43	105.6%	104.1%
関東地方	33,029,542	73	104.4%	103.1%
中部地方	10,893,511	53	104.2%	102.6%
近畿地方	19,002,540	44	102.3%	101.9%
中国・四国地方	8,933,883	34	103.6%	101.1%
九州・沖縄地方	4,839,762	23	96.2%	96.6%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
1～3店舗	644,118	45	98.7%	99.5%
4～10店舗	4,030,123	73	102.7%	101.5%
11～25店舗	9,650,068	62	102.1%	101.1%
26～50店舗	16,091,540	46	103.1%	101.9%
51店舗以上	58,599,508	44	103.9%	102.7%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	86,901,460
総店舗数（店舗）	7,931	店舗平均月商（万円）	11,224
総売場面積（㎡）	13,130,161	売場１㎡あたり売上高（万円）	6.8

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第２位以下四捨五入

2018年10月23日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
2018年8月実績　確報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
総売上高	94,360,053	100.0%	102.0%	100.9%
食品合計	85,515,944	90.6%	102.7%	101.4%
生鮮３部門合計	31,687,884	33.6%	103.3%	101.9%
青果	13,640,657	14.5%	108.0%	106.6%
水産	7,822,407	8.3%	99.4%	98.2%
畜産	10,224,820	10.8%	100.4%	99.0%
惣菜	10,289,815	10.9%	103.8%	102.2%
日配	18,395,738	19.5%	102.9%	101.9%
一般食品	25,142,506	26.6%	101.4%	100.2%
非食品	6,339,060	6.7%	97.5%	96.6%
その他	2,505,095	2.7%	97.0%	97.9%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
北海道・東北地方	13,371,509	43	101.6%	99.8%
関東地方	33,924,668	73	102.8%	101.6%
中部地方	11,865,423	53	101.5%	100.4%
近畿地方	20,158,941	44	101.4%	101.0%
中国・四国地方	9,663,709	34	102.2%	99.9%
九州・沖縄地方	5,375,803	23	101.3%	102.0%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
1～3店舗	723,327	45	96.7%	97.6%
4～10店舗	4,110,239	72	101.4%	100.5%
11～25店舗	10,546,579	63	100.6%	100.1%
26～50店舗	17,399,404	46	101.3%	99.8%
51店舗以上	61,580,505	44	102.6%	101.4%

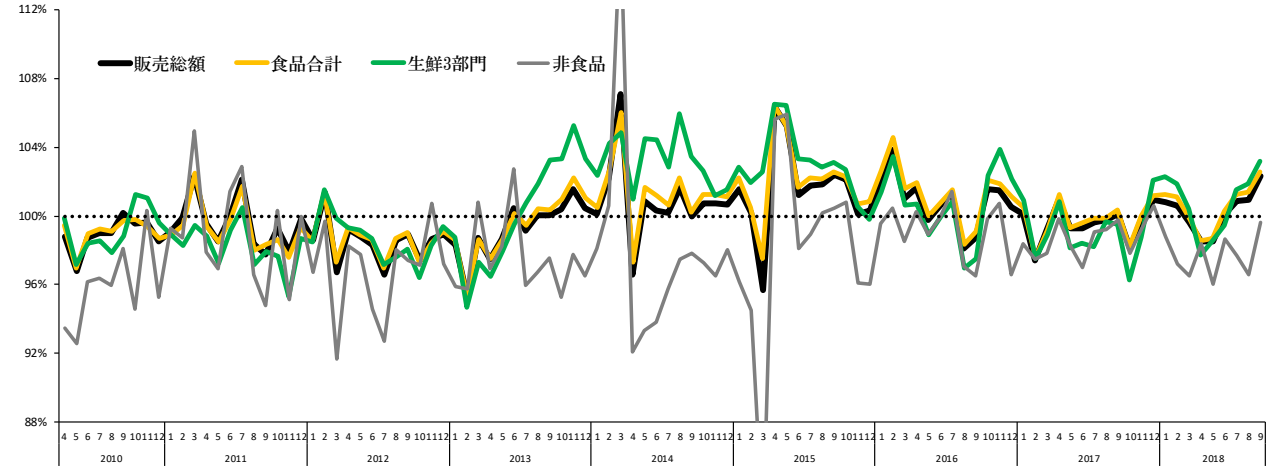
集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	91,885,326
総店舗数（店舗）	7,944	店舗平均月商（万円）	11,878
総売場面積（㎡）	13,141,908	売場１㎡あたり売上高（万円）	7.2

※売上高は税抜金額

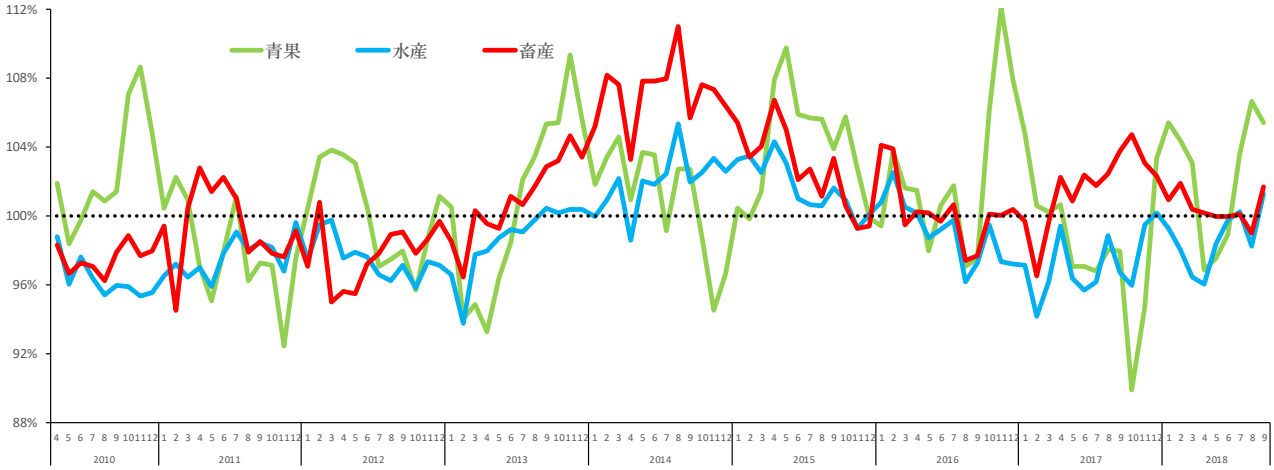
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第２位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計（パネル270） 既存店前年同月比推移　2010年4月～

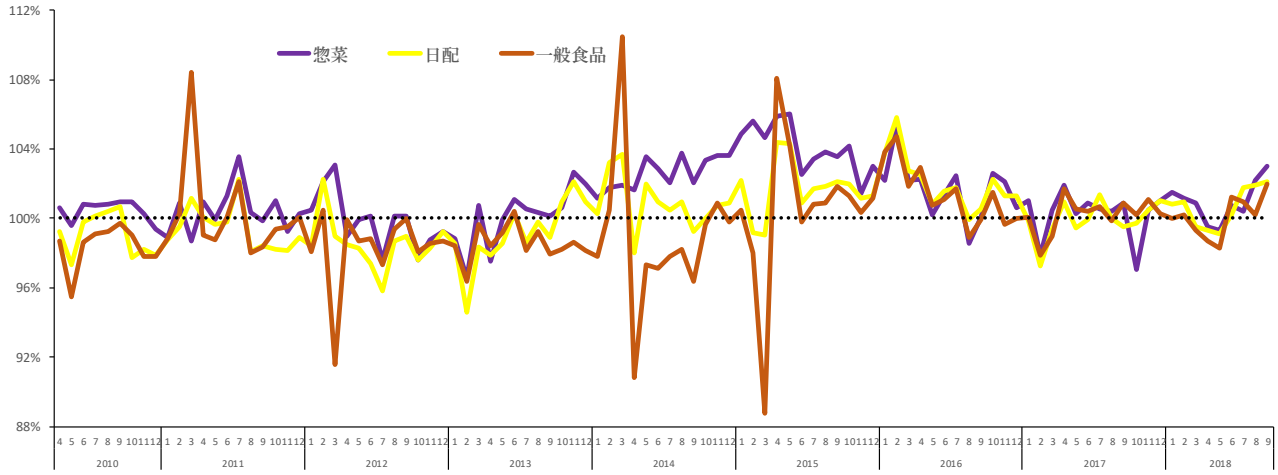
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2018年8月までは確報版による前年同月比、2018年9月は速報版による前年同月比

2018年9月エリア別気候状況

1.　9月気温の特徴：全国的に平年並みだった

上旬：西日本で低かったほかは、平年並だった。

中旬：北・東・西日本では平年並だった。

下旬：北・東・西日本では平年並だった。

2017年9月との比較：上旬は北・東日本で前年より高い気温であった。中旬以降はほぼ前年並みの気温だった。

	平年との比較（℃）						今年と前年との差（℃）		
	2018年9月			2017年9月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北海道地方	0.7	0.5	0.5	-0.6	-0.6	0.2	1.3	1.1	0.3
東北地方	0.2	0.0	0.3	-1.6	0.4	0.4	1.8	-0.4	-0.1
関東甲信地方	0.6	-0.7	0.1	-2.1	0.4	0.8	2.7	-1.1	-0.7
北陸地方	-0.5	-0.5	0.0	-1.7	-0.1	0.3	1.2	-0.4	-0.3
東海地方	0.3	-0.7	-0.1	-1.2	-0.1	0.4	1.5	-0.6	-0.5
近畿地方	-0.6	-0.4	-0.3	-1.1	-0.5	0.1	0.5	0.1	-0.4
中国地方	-1.0	0.0	0.1	-1.5	-0.5	-0.3	0.5	0.5	0.4
四国地方	-1.0	0.2	0.1	-0.9	-0.3	-0.2	-0.1	0.5	0.3
九州北部	-0.6	0.9	0.2	-1.0	-0.4	-0.2	0.4	1.3	0.4
九州南部・奄美地方	-0.3	0.9	0.4	0.0	0.1	-0.2	-0.3	0.8	0.6

平年差
＋2℃以上　－2℃以上
＋1℃以上　－1℃以上

前年差
＋2℃以上　－2℃以上
＋1℃以上　－1℃以上

2.　9月日照時間の特徴：全国的に日照時間はかなり少なかった

上旬：東日本太平洋側でかなり少なく、北・西日本と東日本日本海側で少なかった。

中旬：北日本と沖縄・奄美でかなり多かった。一方、東日本太平洋側と西日本で少かった。

下旬：、北日本日本海側と西日本太平洋側でかなり少なく、北日本太平洋側と東日本、西日本日本海側、沖縄・奄美で少なかった。

2017年9月との比較：全国的に上旬と下旬で前年より少ない日照時間であった。

	日照時間　平年比（%）						今年と前年との差（%）		
	2018年9月			2017年9月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北海道地方	90	161	74	151	77	114	-61	84	-40
東北地方	59	138	67	143	110	142	-84	28	-75
関東甲信地方	65	85	64	101	113	141	-36	-28	-77
北陸地方	68	89	67	131	100	155	-63	-11	-88
東海地方	61	73	73	98	87	132	-37	-14	-59
近畿地方	54	67	62	100	76	139	-46	-9	-77
中国地方	63	62	68	90	84	141	-27	-22	-73
四国地方	60	80	76	100	62	102	-40	18	-26
九州北部	71	72	74	99	51	96	-28	21	-22
九州南部・奄美地方	78	113	55	114	63	79	-36	50	-24

平年差
平年比150%以上　平年比50%以下
平年比125%～149%　平年比51%～75%

前年差
＋50%以上　－50%以下
＋25～49%　－25～-49%

3.　9月降水量の特徴：全国的にかなり降水量が多かった

上旬：東・西日本でかなり多く、沖縄・奄美で多かった。

中旬：北日本でかなり少なく、沖縄・奄美で少なかった。一方、西日本日本海側では多かった。

下旬：東・西日本太平洋側でかなり多く、北日本太平洋側と東・西日本日本海側、沖縄・奄美で多かった

2017年9月との比較：全国的に上旬と下旬は降水量が多く、中旬は北・西日本で少ない降水量となった。

	降水量　平年比（%）						今年と前年との差（%）		
	2018年9月			2017年9月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北海道地方	61	8	54	13	260	89	48	-252	-35
東北地方	157	22	172	44	128	98	113	-106	74
関東甲信地方	209	98	206	65	85	84	144	13	122
北陸地方	379	104	0	92	100	74	287	4	-74
東海地方	329	71	215	62	83	69	267	-12	146
近畿地方	491	76	253	57	179	36	434	-103	217
中国地方	402	0	256	98	266	62	304	-266	194
四国地方	529	86	213	65	233	30	464	-147	183
九州北部	174	0	159	86	208	71	88	-208	88
九州南部・奄美地方	211	85	261	100	204	114	111	-119	147

平年差
平年比150%以上　平年比50%以下
平年比125%～149%　平年比51%～75%

前年差
＋50%以上　－50%以下
＋25～49%　－25～-49%

気象庁ホームページ・報道発表資料「9月の気候」参照
平年値は過去30年（1981年～2010年）の平均
スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2018年10月調査結果（9月実績）
（2018年10月23日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1.経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について
- 前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの５段階で評価
- 前年同月を100とした当月の値を調査　※2014年4月実績より

2.カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、
- 前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの５段階で評価
- 各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI（Diffusion Index）の算出方法
回答構成比（%）に以下の点数を乗じてDIを算出
かなり改善＋0.5・やや改善＋0.25・変わらない±0 ・やや悪化－0.25・かなり悪化－0.5
※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1.景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、
- ２～３ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで５段階で評価
- 今後２～３ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの５段階で評価

景況感DI（Diffusion Index）の算出方法
回答構成比（%）に以下の点数を乗じてDIを算出
かなり改善＋1.0・やや改善＋0.75・変わらない＋0.5 ・やや悪化＋0.25・かなり悪化＋0
※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人　全国スーパーマーケット協会
一般社団法人　日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

10 月調査（9 月実績）結果概況

景気判断 DI は現状・見通しともに改善

9 月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断 DI 現状判断は前月から+1.1 の 48.7、見通し判断は前月から+2.2 の 47.3 となり、どちらも前月から改善をみせた。

経営動向調査では、売上高 DI が 2016 年 11 月以来のプラス圏となる 0.7、収益 DI は-1.8 とどちらも前月から大幅な上昇をみせた。猛暑や天候不良による青果相場の高騰が続いており、生鮮仕入原価 DI は+8.6 と高水準を維持しているほか、台風接近前の駆け込み需要などで客単価 DI は 11.3 と二桁のプラスまで上昇したことが追い風となった。一方来客数 DI は、土・日が一回多い曜日巡りであったものの、悪天候の影響も受け-12.3 と小幅な上昇にとどまった。

カテゴリー動向調査では、地震や台風接近による特需で非食品や一般食品カテゴリーDI が上昇し、マイナス幅を大幅に縮小している。旬のサンマが好調な水産カテゴリーDI も二桁の上昇をみせた。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、前月こそやや悪化したものの、現状判断、見通し判断ともに小幅な改善が継続しており、引き続きトレンドは維持していると考えられる。（周辺地域景気動向 DI 長期傾向参照）

9 月は曜日巡りや台風接近前の買いだめ、タバコの駆け込み需要やサンマの豊漁などスーパーマーケットにとって追い風の多い月となった。一方で、景気判断 DI は夏以降、これまでの悪材料出尽くしによる改善傾向が続いており、基調には明るさもみられている。今後しばらく、短期的な好不調要因への対応力を問われる状況が続くことになるだろう。

景況感調査

現状判断

景気判断DI	消費者購買意欲DI	周辺地域　競合状況DI	店舗周辺地域　景気判断DI
当月：４８．７（＋１．１）	当月：４８．９（＋１．７）	当月：４４．０（＋１．４）	当月：４７．８（－０．２）
前月：４７．６	前月：４７．２	前月：４２．６	前月：４８．０

見通し判断

景気判断DI	消費者購買意欲DI	周辺地域　競合状況DI	店舗周辺地域　景気判断DI
当月：４７．３（＋２．２）	当月：４７．６（＋１．２）	当月：４２．５（＋１．４）	当月：４７．４（－０．２）
前月：４５．１	前月：４６．４	前月：４１．１	前月：４７．６

経営動向調査　経営状況

売上高DI	客単価DI	来客数DI	
当月：０．７（＋５．６）	当月：１１．３（＋５．２）	当月：－１２．３（＋１．０）	
前月：－４．９	前月：６．１	前月：－１３．３	

収益DI	販売価格DI	生鮮品仕入原価DI	食品仕入原価DI
当月：－１．８（＋６．３）	当月：６．１（＋３．０）	当月：８．７（－２．４）	当月：４．４（＋１．４）
前月：－８．１	前月：３．１	前月：１１．１	前月：３．０

カテゴリー動向

青果DI	水産DI	畜産DI	
当月：１０．７（－５．１）	当月：－１．８（＋１０．４）	当月：－１．０（＋８．９）	
前月：１５．８	前月：－１２．２	前月：－９．９	

惣菜DI	日配DI	一般食品DI	非食品DI
当月：４．５（＋２．７）	当月：－１．８（－０．５）	当月：０．１（＋６．１）	当月：－４．６（＋９．３）
前月：１．８	前月：－１．３	前月：－６．０	前月：－１３．９

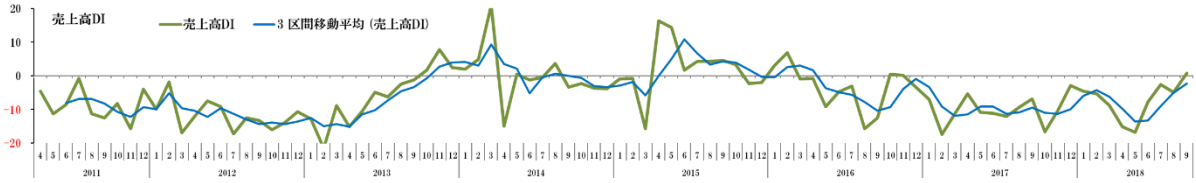
（）内は前月 DI との増減、赤字はマイナス

10 月調査（9 月実績）結果詳細　Ⅰ．経営動向調査（2011 年 4 月～）

1.　売上高 DI

2016 年 11 月以来のプラス圏回復

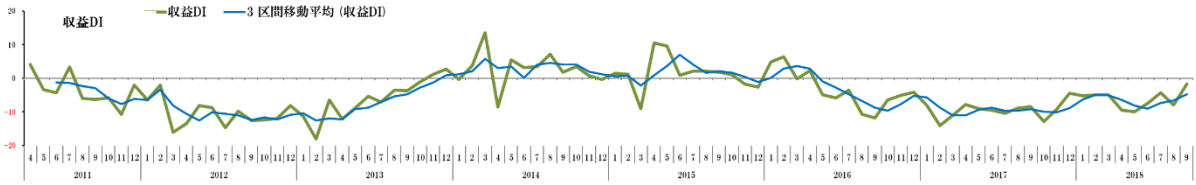
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	9.6	34.2	26.2	26.2	3.7	-4.9
売上高（当月）	**8.1**	**27.0**	**27.0**	**29.7**	**8.1**	**0.7**



2.　収益 DI

当月大きく上昇しマイナス幅を縮小

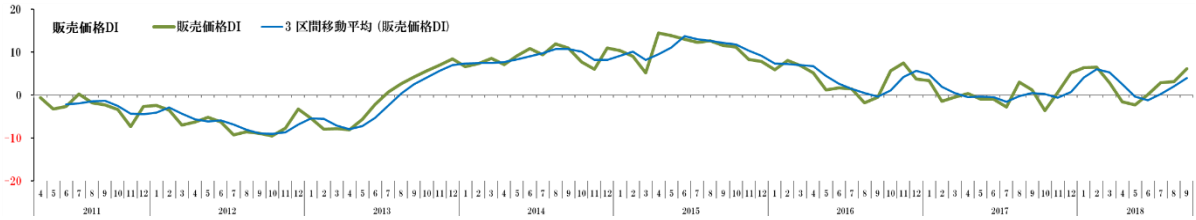
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	12.0	34.4	29.0	23.0	1.6	-8.1
収益（当月）	**6.0**	**33.0**	**29.1**	**25.8**	**6.0**	**-1.8**



3.　販売価格 DI

当月上昇しプラス幅を拡大

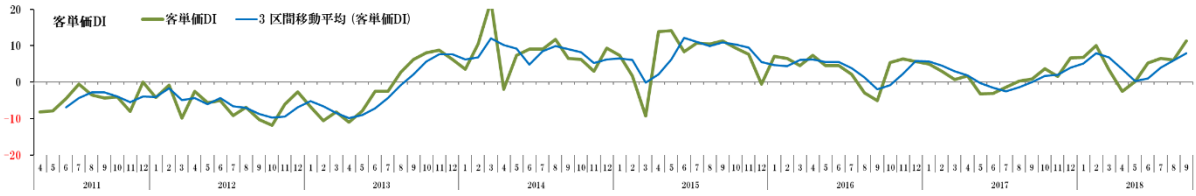
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.0	11.2	66.3	21.4	1.1	3.1
販売価格（当月）	**0.0**	**8.7**	**59.8**	**29.9**	**1.6**	**6.1**



4.　客単価 DI

二桁プラスまで上昇幅を拡大

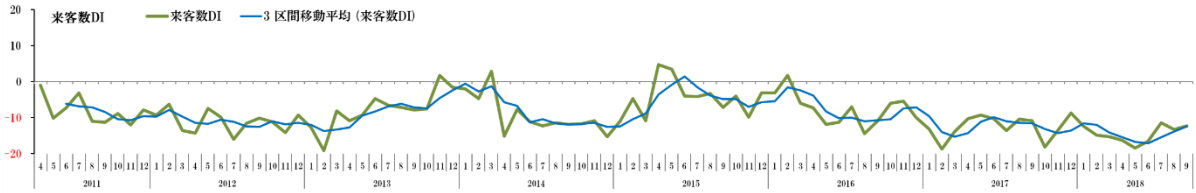
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	1.6	15.1	42.7	38.4	2.2	6.1
客単価（当月）	**1.1**	**11.4**	**32.6**	**51.1**	**3.8**	**11.3**



5.　来客数 DI

小幅に上昇も、二桁マイナス水準での推移が続く

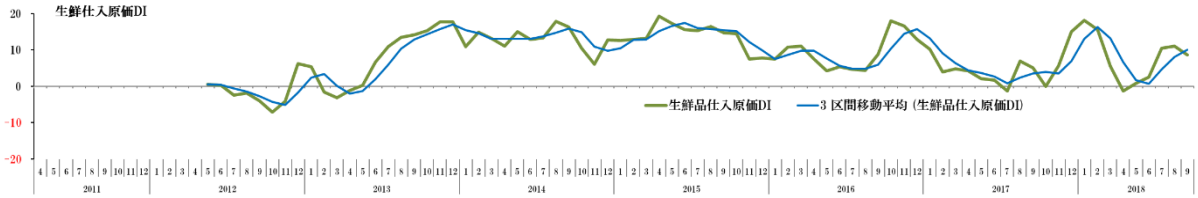
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数（前月）	10.8	46.8	28.5	12.9	1.1	-13.3
来客数（当月）	**10.4**	**45.9**	**29.5**	**10.9**	**3.3**	**-12.3**



6.　生鮮仕入原価 DI

やや下落するも、高水準を維持

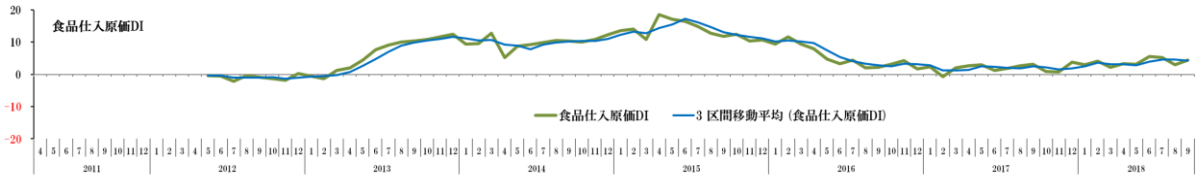
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価（前月）	1.1	7.7	41.5	45.4	4.4	11.1
生鮮仕入原価（当月）	**2.2**	**7.7**	**45.6**	**42.3**	**2.2**	**8.7**



7.　食品仕入原価 DI

小幅に上昇し、プラス圏での推移

回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価（前月）	2.2	9.8	63.4	23.0	1.6	3.0
食品仕入原価（当月）	**2.2**	**7.7**	**62.3**	**26.2**	**1.6**	**4.4**

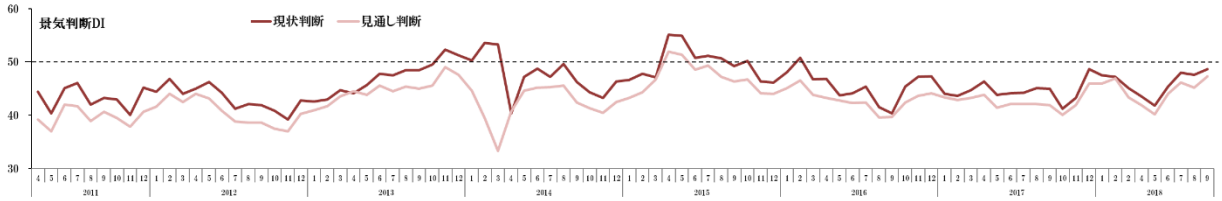


Ⅱ．景況感調査（2011 年 4 月～／周辺地域景気判断のみ 2010 年 4 月～）

1． 中核店舗景気判断 DI

現状判断、見通し判断共に改善

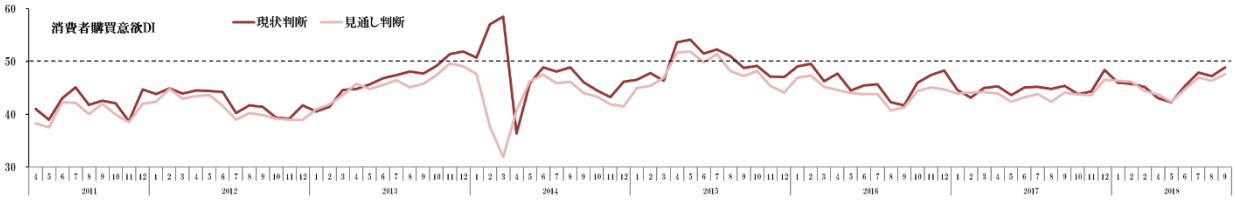
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断（前月）	1.6	18.7	67.9	11.2	0.5	47.6
【現状】景気判断（当月）	**1.1**	**19.4**	**65.1**	**12.9**	**1.6**	**48.7**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断（前月）	2.2	23.8	65.9	7.6	0.5	45.1
【見通し】景気判断（当月）	**1.1**	**21.0**	**66.7**	**10.2**	**1.1**	**47.3**



2． 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に改善

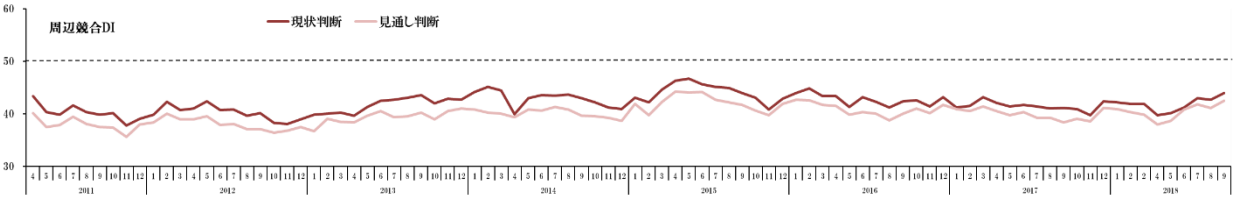
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲（前月）	1.1	16.6	74.9	7.5	0.0	47.2
【現状】購買意欲（当月）	**1.6**	**14.0**	**72.6**	**10.8**	**1.1**	**48.9**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲（前月）	0.5	17.8	77.3	4.3	0.0	46.4
【見通し】購買意欲（当月）	**0.5**	**15.6**	**76.9**	**7.0**	**0.0**	**47.6**



3． 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に小幅な改善

回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況（前月）	3.7	24.1	70.1	2.1	0.0	42.6
【現状】競合状況（当月）	**3.2**	**21.5**	**71.5**	**3.8**	**0.0**	**44.0**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況（前月）	5.9	25.8	66.1	2.2	0.0	41.1
【見通し】競合状況（当月）	**5.4**	**23.1**	**67.7**	**3.8**	**0.0**	**42.5**

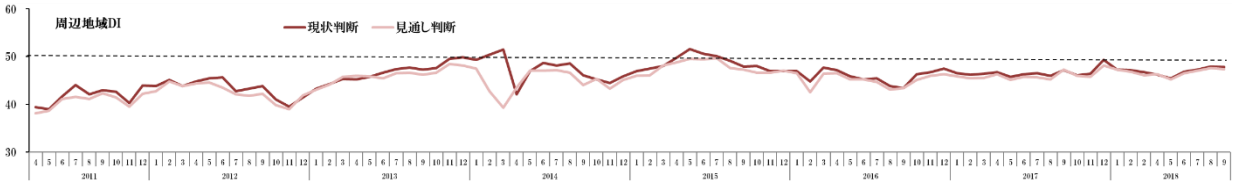


4.　中核店舗周辺地域景気判断 DI

横ばいで推移し、高水準を維持

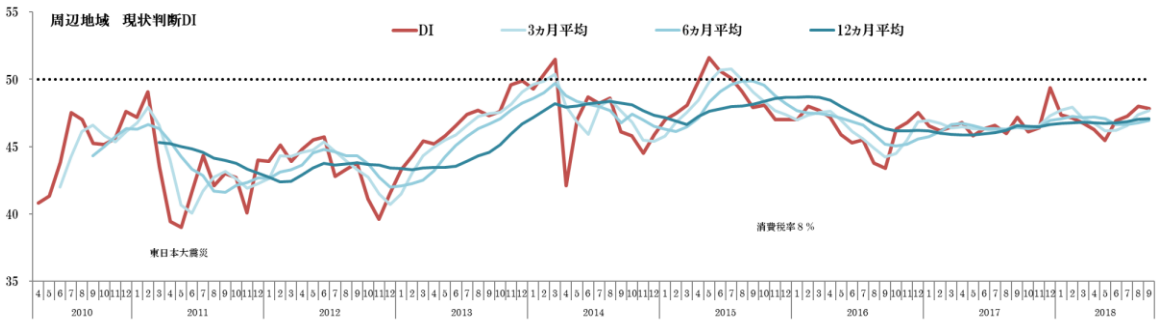
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気（前月）	0.0	11.8	84.9	2.7	0.5	48.0
【現状】地域景気（当月）	**0.0**	**10.9**	**87.0**	**2.2**	**0.0**	**47.8**

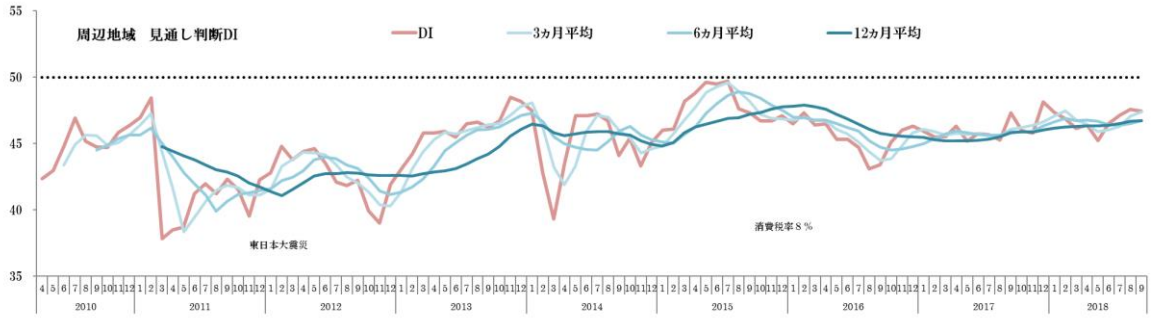
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気（前月）	0.0	12.4	85.4	1.6	0.5	47.6
【見通し】地域景気（当月）	**0.0**	**12.5**	**85.3**	**2.2**	**0.0**	**47.4**



※長期傾向（2010 年 4 月～）

11 年 3 月の東日本大震災後低迷を続けていた DI は、12 年 11 月から 16 ヵ月にわたり改善が続き、14 年 3 月には現状判断 DI が 51.5 を記録した。14 年 4 月の消費税率引き上げにより大きく悪化したものの、その後徐々に持直しをみせ、2015 年 5 月には調査開始以来の最高値を更新し、現状判断 DI は 51.6 にまで達した。しかしこれをピークとし、その後 15 ヵ月にわたり悪化傾向が続き 16 年 9 月には、現状判断 DI は 43.4 まで低迷した。以降やや改善傾向が続いていたが、18 年に入り悪化傾向が続き、5 月には移動線付近を下回る水準まで低下したが、6 月以降は改善傾向が続いている。

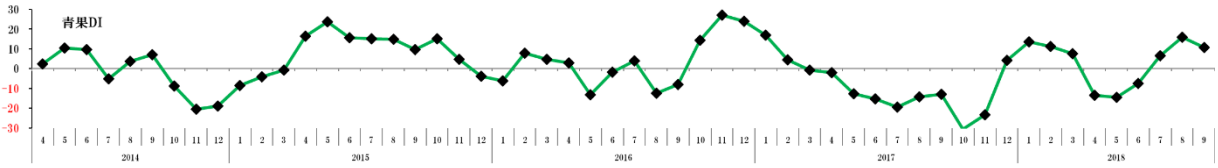




Ⅲ.カテゴリー別動向

1.　青果 DI：10.7（好調）

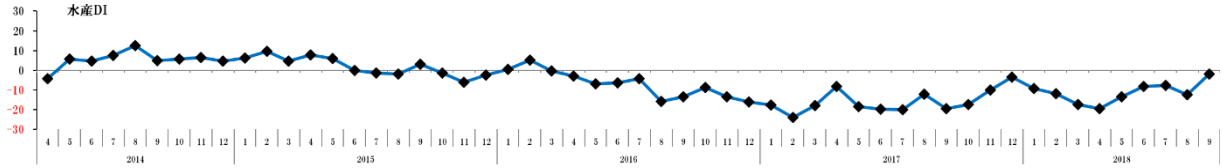
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	3.3	13.9	16.7	48.3	17.8	15.8
青果（当月）	**3.9**	**18.5**	**20.8**	**44.4**	**12.4**	**10.7**



猛暑や少雨、台風被害などの影響で野菜相場が高騰し、一品単価が上昇した。北海道胆振東部地震により根菜類中心に価格上昇と品薄の影響を受けた。レタスやミニトマト、キュウリなどのサラダ商材やカット野菜は引き続き好調、サンマの好調により薬味用の大根も好調であったが、気温の低下した地域では鍋用野菜の動きもよかった。ＴＶ報道の影響でマイタケに特需がみられた店舗もあった。高値で推移している果物類も総じて好調となっており、なかでもブドウの動きがよかった。輸入果物ではバナナやキウイフルーツが引き続き好調となっている。

2.　水産 DI：-1.8（やや不調）

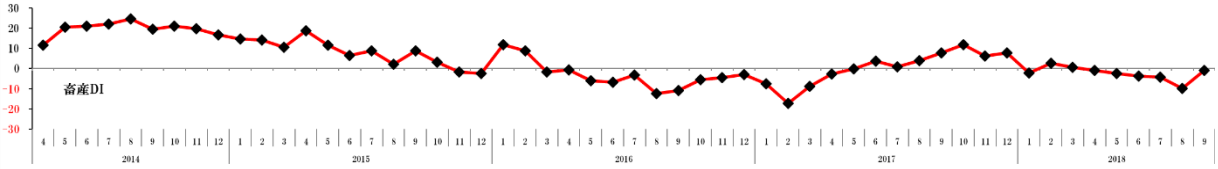
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	16.7	34.4	33.9	11.1	3.9	-12.2
水産（当月）	**7.3**	**31.6**	**28.2**	**26.6**	**6.2**	**-1.8**



旬のさんまは、前年不漁・高値で不振となったが、今年は漁獲量が回復し、相場が低下したことで大幅に売上を伸ばした。同様に秋鮭やシラスなど前年に比べ漁獲量が回復しており好調となった店舗が多かった。一方で、まぐろやうなぎは相場高騰しており不調、塩干類の動きが悪いという指摘が多くみられた。刺身類は好不調がわかれている。

3.　畜産 DI：-1.0（やや不調）

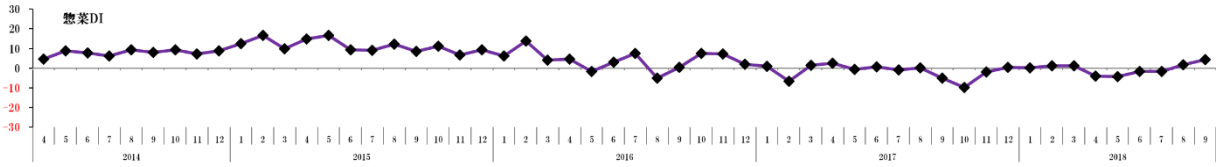
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	10.6	39.4	30.6	17.8	1.7	-9.9
畜産（当月）	**5.1**	**28.7**	**35.4**	**27.0**	**3.9**	**-1.0**



牛肉は相場高傾向が続くなか、土日が一回多い曜日回りも追い風にステーキ用などを中心に好調となった店舗も見られる一方で、伸び悩んだ店舗もみられた。豚肉は国産、輸入共に好不調の判断がわかれた。鶏肉は相場が下落傾向にあり単価下落により苦戦した店舗が多いが、サラダチキンや鍋需要により善戦した店舗もみられた。近隣店舗との価格競争を指摘するコメントがみられた。加工肉は引き続き不振とするコメントが多くみられた。

4.　惣菜 DI：4.5（やや好調）

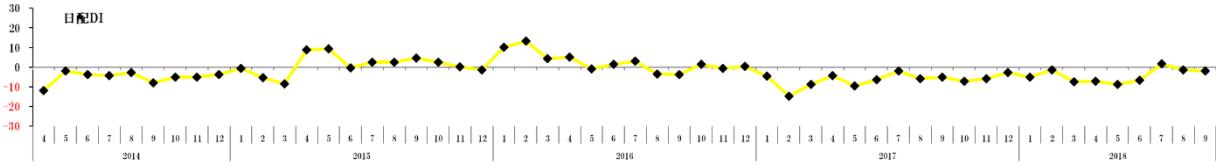
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	7.9	19.8	36.2	29.4	6.8	1.8
惣菜（当月）	**4.6**	**16.7**	**42.0**	**29.9**	**6.9**	**4.5**



土日が一回多い曜日巡りの追い風を受け好調となったが、台風や悪天候による営業時間短縮や来客数減の影響を受けた店舗もみられた。ポテトサラダの食中毒報道からの反動増や青果相場の高騰によりサラダ関連が好調であった。寿司類や米飯類の動きがよかった一方で、揚げ物やてんぷらなどは伸び悩んだ店舗が多い。

5.　日配 DI：-1.8（やや不調）

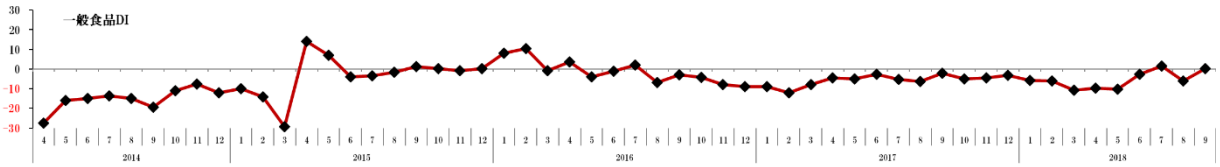
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	6.2	25.3	37.1	30.3	1.1	-1.3
日配（当月）	**6.2**	**28.8**	**35.6**	**24.9**	**4.5**	**-1.8**



地域による前年との気温差や体感気温に違いにより、アイス、飲料など涼味系とおでん商材などのホット商材の好不調判断がわかれている。和日配では健康報道により、納豆や梅干し、漬物（キムチ）の好調続いているほか、カニカマにも特需がみられて店舗があった。地震の影響により、牛乳をはじめとする乳製品の仕入れに影響を受け品薄となった地域もみられた。今年は十五夜が 9 月であったことで和菓子が好調となった。台風接近によりパン類で買いだめ需要がみられた地域があった。

6.　一般食品：0.1（やや好調）

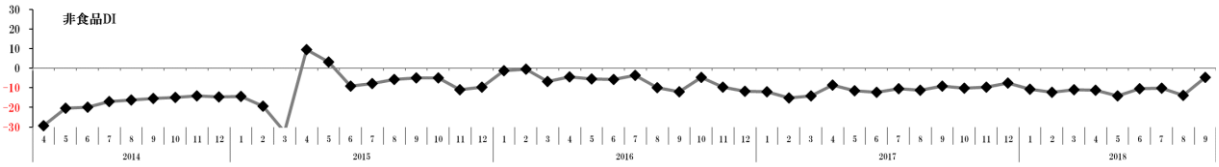
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	6.1	34.6	36.9	21.8	0.6	-6.0
一般食品（当月）	**5.1**	**25.7**	**38.9**	**24.0**	**6.3**	**0.1**



日配カテゴリー同様に気候条件により、飲料などの夏物商材とホット商材などの秋物商材の好不調に地域差がみられた。台風接近前の買いだめ需要が発生した店舗がみられたほか、北海道では地震や停電により、水やレトルト食品、カップラーメンなど保存食品を中心に特需がみられた。一方で、品薄でチャンスロスがあった店舗もみられた。酒類は不調とするコメントが多い。単価の上昇している米類は引き続き好調となった。

7.　非食品 DI：-4.6（やや不調）

回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	17.3	30.1	43.9	8.1	0.6	-13.9
非食品（当月）	**13.0**	**24.9**	**37.9**	**16.0**	**8.3**	**-4.6**



地震や台風の影響で、防災関連として電池や懐中電灯、ガスボンベなどに特需が発生した地域があったほか、タバコには増税前の駆け込み需要がみられた。ホームセンターやドラッグストアなどとの競合の影響が大きく、売場を縮小する店舗もみられる状況は続いている。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：　～ 20　　好調：　20 ～ 10　　やや好調：10 ～ 0
やや不調　：　0 ～ -10　　不調：-10 ～-20　　かなり不調：　-20～

2018 年 10 月調査（9 月実績）キーワード TOP3

1. **土日が一回多い**
2. **青果相場高**
3. **地震と台風の影響**

スーパーマーケット景気動向調査　集計数

9 月実績速報版　186 社
8 月実績確報版　187 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局　tokei@super.or.jp